

# キッズコーナー

小学生、中学生に読んでもらいたい記事をおいています。読めない字があったら、おうちの人に教えてもらってね。

## 私たちの身近な文化財

## 熊野宮のケヤキと鈴木稲荷神社のケヤキ

ケヤキは、武蔵野台地の風土で育つ生活に役立つ樹木として、江戸時代の新田開発にともなって植えられてきた、小平を代表する樹木です。

もともと小平市域は、自然の川がなく、新田開発に必要な水が確保できなかったため、江戸時代の初めごろまでは人が住めず、樹木もまばらなススキなどが茂る草原でした。それが、江戸時代の初めに玉川上水が造られ、流路が小平の南を通るように掘られたことから、小平市域にも水が流れてくるようになりまし。岸村(今の武蔵村山市)の名主(村長)である小川九郎兵衛はそれに目をつけ、この地域一帯を開拓し、小平市の起源となる小川村を開きます。明暦2年(1656年)のことでした。こうした開拓によってできた村は、当時「新田」と呼ばれていました。小平市はこのような新田集落がいくつも合併してできた市です。

今回紹介する熊野宮のケヤキと鈴木稲荷神社のケヤキは、こうした江戸時代の新田開発でできた、新しい村の鎮守(守り神)として建てられた神社に植えられた樹木のひとつです。

ケヤキは非常に堅く、昔から建物の部材としてよく使われていましたが、もともと山地を好み、小平のような台地上には見られない樹木でした。新田を開拓した人たちは、自分の家の周りにケヤキを多数植えて大きく育てておき、家を建替えるときに切り出して柱にしたり、お金が必要になった時に材木屋に売って換金していました。屋敷地内に多数のケヤキが植えてある家は、近所から「櫛大尽」と呼ばれたりしたようです。



〈鈴木稲荷神社のケヤキ〉

熊野宮のケヤキも鈴木稲荷神社のケヤキも、もともとは神社のお社の建替えのときの部材や建替え資金とするために、部材を建てた時に境内に植えられたものと思われま。熊野宮や鈴木稲荷神社は、小川村の開拓から約70年後、江戸幕府八代将軍徳川吉宗が発令した新田開発奨励の時(武蔵野新田開発)にできた村の鎮守(守り神)として建てられました。熊野宮は今の仲町付近を開拓してできた小川新田の、鈴木稲荷神社は今の鈴木町あたりを開拓してできた鈴木新田の鎮守でした。

両ケヤキとも、神社参道を挟むように2本並んでいるのが特徴です。熊野宮のケヤキは神社拝殿の直前で東西に、鈴木稲荷神社は神社参道の入り口のところで南北に並んで生えていることから、他とは違う神社の景色をかたちづけています。大きさは2本とも同じではなく、熊野宮のケヤキは東側の方が、鈴木稲荷神社のケヤキは北側の方がより太く成長しています。これは、樹木の成長に欠かせない光合成に必要な日光の当り方が同等でないことなどが原因と考えられます。

これら両ケヤキは、江戸時代中期の武蔵野新田開発で成立した小川新田と鈴木新田の歴史を伝える古樹であること、またともに神社参道の両脇に2本並立し、境内の景観に即した管理が行われ、地域のシンボルとして長く生きてきたことから、平成30年3月18日にともに小平市の天然記念物に指定されました。



〈熊野宮のケヤキ〉



## 秋のおすすめ本



この秋、図書館が皆さんにおすすめしたい本を3冊選びました。図書館で読書の秋を楽しみませんか。

### 『かようびのよる』

デヴィッド・ウィーズナー作 当麻ゆか訳 徳間書店

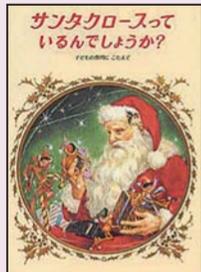


火曜日の夜8時ごろ、静かな池のほとりに突然現れた空飛ぶかえるの大群。すいれんの葉に乗ったかえるたちが住宅街を飛びまわる様子は、まるでサイレントの映画を観ているような気分になります。絵本の中には、サンドイッチを食べている作者のウィーズナー本人も登場します。

日常生活に魔法がまぎれこんだ、子どもの想像力をかきたてる絵本です。

### 『サンタクロースっているんでしょうか?』

フランシス=P=チャーチ著 中村妙子訳 東逸子画 偕成社



「サンタクロースっているんでしょうか?」この本は、実際にそんな8歳の少女の質問に答えた、ニューヨーク・サン新聞の社説を訳したものです。少女に真剣に向き合った愛情あふれるこの記事は、現代の私たちに忘れてくれている何かを気づかせてくれるでしょう。この社説は、クリスマスの時期には、アメリカの新聞や雑誌に繰り返し掲載されるそうです。

さあ、記者は少女になんと答えたのでしょうか?

### 『こわがってるのはだれ?』

フィリパ・ピアス作 高杉一郎訳 岩波書店



ユニークで恐ろしい手を使い、いじめっ子から自分を守ってくれる大おばあさんの話「こわがってるのはだれ?」のほか、リンゴの木に住みついた寂しがり屋の幽霊が出てくる「サマンサと幽霊」などの、世にも不思議な短編11話が収められています。

作者のきめ細かく、的確で簡潔な描写は、物語に奥行きを感じさせてくれます。また、1話ごとに描かれた陰影のある絵が、より一層読者の恐怖を誘います。

## 小平市 平櫛田中彫刻美術館

### 明治150年記念特別展 「彫刻コトハジメ」

明治150年と東京150年を記念して開催する本展では、「博覧会」「展覧会」「銅像」「美術学校」といった明治時代に生まれた事柄をキーワードにして、全国から集めた約60点の明治時代の彫刻作品とともに、この時代の彫刻界を紹介します。

と き 9月14日(金)~11月25日(日)(会期中無休) ※会期中の土曜日は、閉館時間を午後5時まで延長します。

観覧料 一般...800円(650円)、小・中学生...150円(110円) ※カッコ内は、団体20人以上です。

※駐車場はありません。お車をご利用の方はお問い合わせください。

#### 会期中のイベント

##### ◆学芸員による美術講座

と き 9月29日(土)、10月6日(土)、19日(金)、11月7日(水)、17日(土) 各日とも 1回目午前11時から、2回目午後2時から ※10月6日は1回目のみ

##### ◆江戸系あやつり人形一糸座「人形浄瑠璃公演」

平櫛田中彫刻美術館の記念館を舞台に、江戸時代から続く糸あやつり人形「一糸座」の公演を行います。明治150年特別展にあわせ、明治時代の演目「田能久」を公演します。

と き 10月6日(土)、7日(日) 各日とも午後2時~午後3時

##### ◆秋のわくわく体験美術館ウィーク

期間中、小・中学生は無料で観覧できます。(同伴の保護者の方は観覧料が必要)

と き 10月27日(土)~11月4日(日)

##### ◆ルネこだいら出前コンサート「魂の津軽三味線」

平櫛田中彫刻美術館を会場に、日本を代表する津軽三味線演奏家・山中信人による魂の津軽三味線をお聴きいただけます

と き 10月28日(日) 1回目 午前11時~午前11時30分、2回目 午後1時30分~2時

参加費 無料(別途、観覧料が必要)



##### ◆秋のお茶会&菊展示

と き 11月2日(金)~4日(日) 午前10時~午後3時 参加費 お茶席代300円



##### ◆記念講演会「日本彫刻のはじまり」

と き 9月22日(土) 午後1時30分から ところ 放送大学東京多摩学習センター(一橋大学小平国際キャンパス内) 講師 佐藤道信氏(東京藝術大学教授) 定員 100人 申込み 当日、会場へ

問合せ ☎042(341)0098

## 秋の公民館まつり

子どもから大人まで、どなたでも楽しめるメニューが盛りだくさんです。家族や友達と一緒に、お近くの公民館に足を運んでみませんか。日程は下表のとおりです。

### 平成30年度 秋の公民館まつり日程表

開催日	会場	電話・FAX
10月6日(土)・7日(日)	小川西町公民館	042(343)1415
10月27日(土)・28日(日)	上水南公民館	042(325)4133
10月27日(土)・28日(日)	花小金井北公民館	042(462)5790
11月10日(土)・11日(日)	小川公民館	042(343)3620
11月17日(土)・18日(日)	津田公民館	042(342)0863
11月23日(金)~25日(日)	鈴木公民館	042(388)0050



〈昨年の公民館まつりの様子 左 津田公民館 右 小川西町公民館〉

## 小・中学生が広島平和記念式典に出席しました

8月5日(日)から6日(月)の1泊2日で小・中学生広島平和学習を行いました。市内の小学生5人・中学生5人が、広島を訪問して原爆ドームなどを見学し、平和記念式典に出席することで、戦争の悲惨さ、平和の意義について考えてきました。

また、8月19日(日)に行われた、被爆体験者に経験談を語っていただく講演会の中で、子どもたちが広島平和学習の報告を行いました。



〈地域学習支援課〉